

102學年度

日本思想史研究上(大学院)(担当:辻本雅史)

Study on History of Japanese Thought

日本近世の特徴ある主要な思想を取り上げて概説的に講義する。とくに近世思想史の知的基盤となった儒学の展開を、思想の形成過程と同時代の歴史的課題と関わらせてとらえる。そうすることで、江戸時代の知的な営みのリアリティをすくい取ってみたい。その際、知を伝えるメディアの様態(出版、講話等)にも注目する。それは、思想の社会的な意味を解明する視点である。さらに同じ経書テキストを共有する中国や朝鮮の儒学との違いにも留意するつもりである。

第一学期:近世前半期の儒学思想

- 1:導入:授業の目的・内容・方法・評価などの説明
- 2:近世社会の特質:兵農分離と石高制度、「メディア革命」と知の転換
- 3:17世紀の政治・社会・文化概要
- 4:儒学の受容と近世儒学の成立:藤原惺窩・林羅山・中江藤樹
- 5:日本朱子学の成立:山崎闇斎と闇斎学派
- 6:伊藤仁斎(1):思想形成
- 7:伊藤仁斎(2):「人倫日用の学」の構造とその意味
- 8:貝原益軒(1):思想形成と氣の思想
- 9:期中考査
- 10:貝原益軒(2):「事天地」の思想、出版メディア
- 11:18世紀の政治・社会・文化の概要
- 12:荻生徂徠(1):思想形成
- 13:荻生徂徠(2):朱子学と仁斎学への批判
- 14:荻生徂徠(3):徂徠学の方法と構造
- 15:石田梅岩:民衆の「学問」の登場
- 16:石門心学:心学道話という方法
- 17:安藤昌益:労働現場の思想
- 18:期末レポート

【評価方法】期中考査40% 期末レポート50%、出席10%

【参考文献】

子安宣邦『江戸思想史講義』岩波現代文庫、2010年

平石直昭『日本政治思想史』放送大学教育振興会、2001年

辻本雅史『「学び」の復権』岩波現代文庫、2012年

『日本思想史講座3—近世』ぺりかん社、2012年

張寶三・徐興慶編『徳川時代日本儒学史論集』台湾大学出版中心、2004年

辻本雅史『日本徳川時代的教育思想與媒体』台湾大学出版中心、2005年

102學年度

日本思想史研究・下(大学院)(担当:辻本雅史)

第一学期に引き続き、日本近世の特徴ある思想を取り上げて概説的に講義する。とくに 18 世紀末の本居宣長から幕末に至る思想を中心とする。18 世紀後期ころからは、「内憂外患」のなかで、近世社会体制が大きく動揺した時代である。したがって同時代の直面した歴史的課題と思想を関わせることで、江戸の知的な営みのリアリティをとらえたい。その際、知を伝えるメディアの様態にも注目することで、思想の社会的な意味を考察する。

第二学期:近世後半期の思想

1: 第一学期の確認と第二学期への導入: 授業計画と方法などの説明

2: 18 世紀後半期の概要

3: 国学の形成: 契沖、荷田春満、賀茂真淵

4: 本居宣長(1): 思想形成

5: 本居宣長(2): 主情主義的人間観

6: 本居宣長(3): 歌論ともののあはれ

7: 本居宣長(4): 『古事記伝』と古道論

8: 平田篤胤と後期国学

9: 期中考査

10: 19 世紀の概要: 内憂外患

11: 寛政異学の禁と松平定信

12: 後期水戸学(1): 危機認識の思想

13: 後期水戸学(2): 会沢安『新論』

14: 後期水戸学(3): 国体論と尊王攘夷思想

15: 佐久間象山の思想

16: 横井小楠の思想

17: 吉田松陰の思想

18: 期末レポート

【評価方法】期中考査40% 期末レポート50%、出席10%

【参考文献】

子安宣邦『江戸思想史講義』岩波現代文庫、2010 年

平石直昭『日本政治思想史』放送大学教育振興会、2001 年

辻本雅史『「学び」の復権』岩波現代文庫、2012 年

『日本思想史講座3—近世』ぺりかん社、2012 年

張寶三・徐興慶編『徳川時代日本儒学史論集』台湾大学出版中心、2004 年

辻本雅史『日本徳川時代的教育思想與媒体』台湾大学出版中心、2005 年